

幸せ運ぶアホ鳥

金銭が自ずと 集まる会社とは？



え・城谷俊也

三月のテーマ

お金と倫理

金 銭の倫理をテーマにした講
座の終了後、ある夫婦が、
講師を駅まで送迎しました。以下
はその時の会話です。

妻「お札(紙幣)にアイロンを
かけると、なぜか家計費の支出が少
なくて済むのですよ」

講師「それは不思議ですね」
夫「本当にそうなのです。以前
は家内に言われるまま、毎月三十
万円ずつ渡していました。足りな
い時は、そのつど必要額を渡して
いたんです」

妻「今月は少し足りなくて...」
と追加をお願いすると、決まって
夫婦喧嘩になるのですが、お札に
アイロンをかけ始めてから、一度
も夫婦喧嘩がないんです。追加の
要求をしないから(笑)」

夫「追加要求どころか、妻のほ
うから『家計費は月二十万で大丈
夫』と言うのですから、喧嘩にな
るはずがないですよ」

講師「なぜ月に十万円もの削減
ができたのでしょうか」

妻「うーん、なぜでしょう」

夫「同居する家族の人数が変わ

ったわけでもないし、保険の契約
を変えるなど、特別な手立てをし
た覚えもないしなあ」

妻「強いていえば、お札にアイ
ロンをかけるようになってから、
支払いをする際に(これは〇〇の
お金、これは〇〇に要する費用)
というように、お金の使い道に気
を配るようになりました」

講師「なるほど。それで結果と
して、使途不明の無駄遣いがなく
なって、不要な物を買わなくなっ
たのかもしれないね」

妻「それに、ひと手間かけてシ
ワを伸ばしたお札でしょう。支払
いをする時も、自然に(行つたら
つしやい、またお友達を連れて帰
つてきてね)と、心の中で唱えて
送り出すようになりましたね」

夫「たしかにそうかもしれないせ
ん。: それにしても、これまでの
十万円はどこに消えていたんだ」
そう言いながらも、ご主人は目
を細めていました。

*
紙幣にアイロンをかけ、しわを
伸ばして扱うことは、金銭を大切

にするほんの一面の実践です。肝
心なのは、その行為の奥にあるこ
と、すなわち「何のために支払う
のか」と、金銭の使途を考えると
ころにあるのでしょうか。

これを企業経営に応用した場合、
「何のために」利益を上げるのか、
その利益を「何に使うのか」と問
い続けるうちに、経営のより高い
精神的意義が明確になってきます。
単に欲望から金銭を残そうとする
のではなく、利潤を得て、永続的
に社会に貢献できる会社を目指す
なら、そのために会社を大きくし
ようとすることは「活かした金銭の
使い道」に他なりません。

金銭は、自らを活かして使って
くれる人や会社のもとに集まると
いう習性を持っています。また、
よい会社には、**金銭だけでなく、
人も物も情報も同じように集まっ
てきます。**

金銭の習性をよく理解し、金銭
が友達を連れて集まってくるよう
な会社、「儲ける」のではなく、自
ずと「儲かる」ような会社を目指
したいものです。